

# 令和元年度 みんなで支える森林づくり木曾地域会議

## (第2回) 実施概要

1 開催予定日時場所 令和2年3月6日(金) 午後1時30分～  
木曾合同庁舎4階 401・402号会議室

### 2 出席予定者

#### 【委員】

坂家重吉委員(座長)、田中淳司委員、田中憲江委員、脇坂智恵子、清水紘一委員、  
長瀬恵敏委員、古畑正美委員、半場純孝委員

#### 【木曾地域振興局】

中坪局長、春日林務課長、稲村課長補佐兼林務係長、中宿課長補佐兼普及林産係長、  
中村副参事兼課長補佐兼治山林道係長、上野担当係長

### 3 実施内容

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を中止し、各委員の皆様へ会議資料を送付してご意見をいただきました。

#### (1) 会議資料

- 「別紙会議資料」の説明
- 会議次第
- 資料1 令和元年度森林づくり県民税活用事業 木曾地域の実績見込み
- 資料2 令和元年度森林づくり県民税活用事業の実施状況
- 資料3 令和2年度森林づくり県民税活用事業の概要(案)
- 資料4 平成31年4月、森林経営管理制度がスタートしました

#### (2) 委員の皆さまからの主な意見等

〔令和元年度 実績関係：資料1、資料2〕

#### 【防災・減災のための里山等の整備事業】

- 長野県の13.6%を占める木曾地域の森林は、奥山が60%を超える国有林、里山は民有林とはっきりしています。その中での整備実績としてはよく頑張ったと思います。ただし、実施面積に対して補助金額の規模感も投入額が多いと言われないよう適正な実施が必要です。
- 昨年の台風15号は千葉県などで倒木による停電が発生し復旧まで長い日数を要しました。このような災害を防ぐためにも里山の整備(危険木の伐採)が必要です。また、国道、県道、町村道に延び出た樹木は危険だと思いながら通過することがあり何

とかしたいものです。

→ 令和元年度より、ライフラインの倒木等の恐れのある危険木及び枯損木の処理の支援を行っております。

- 木曽地域の各町村別の実績を見ると、手が回らないのか計画に入らないのか町村のばらつきが気になります。(危険木伐採について、町村によって取組み状況が異なる)

→ 町村にも、いただいたご意見を情報提供してまいります。

- 森林地帯に囲まれた中での居住地での生活は、防災・減災の取組みの必要性を強く感じます。戦後の造林運動の中で水源造林として植林され、下刈りや除伐・間伐などが進められましたが、今は、山の管理は行き届かず、後を継ぐ人も居ない。不在地主の山林も広がっています。去年は台風19号に寄る大きな被害が発生しました。私達の地域でも同じく心配されるところです。私たちの郷や命を守るため、国や県のお力添えをいただきたくお願いいたします。

→ 引き続き、県民の皆様方の安全・安心の暮らしを守るための里山の整備を進めてまいります。

#### 【県民協働による里山の整備・利用事業】

- 実績がないところを見ると、「住民協働による、自ら汗をかく」が取り組まれない木曽地域の一番弱い部分が露呈しています。

→ 情報誌掲載や地区の代表者等にアプローチして、地域の掘り起こしに努めているところです。

#### 【地産地消による木の香る暮らしづくり事業】

- 以前の実績もそうですが、町村に偏りがある感じがします。

木曽建設労働組合は建築者（大工さん）育成やその業界の認知普及を事業に入れていますし、小中学校は地元の産業や匠とのマッチングを模索しています。この事業は、町村の林務担当者や教育委員会の頑張りを見せることができる事業だと思います。

→ 町村にも、いただいたご意見を情報提供してまいります。

- おもちゃ美術館等での高齢者と子どもの交流・居場所づくりとしての木の活用に森林づくり県民税の活用が出来ればと思います。

→ 地産地消による木の香る暮らしづくり事業の一環として活用が可能となっております。

- 木曽の公共サインは「木曽グリーン」を基調とした統一的なものです。そこにこの事業をどのように浸透させるか。場所、目的により区別する方向なのでしょうか。

また、木質が表面に出る県産材公共サインは設置後10年も経過すると、老朽化で見栄えも悪いサインにならないかと心配です。

→ 当事業では、観光地内等でのインバウンドにも対応した小規模な案内板（例：ト

イレ案内) が想定されています。

#### 【観光地における景観形成のための森林等の整備】

- 木曾八景の一つ「小野の滝」周辺で実施してくれないかと切望します。木曾川と国道19号沿線ですが、しあわせ信州創造プランの木曾のめざす姿の一助になればと思います。  
→ 町村にも、いただいたご意見を情報提供してまいります。
- “地蔵峠から見た景観整備状況”ここから見た御嶽山が一番すばらしいと思います。きれいにさせていただきうれしく思います。木曾駒のキビエ峠も御嶽山がよく見える所ですが、今はどうなっているのでしょうか。3年程前通ったら、うっそうとしていました。

#### 【森林セラピー推進支援事業（施設整備）】

- 赤沢自然休養林で実績見込みとなっております、どのようなものができたか楽しみです。昨年7月に説明を聞いていると思います。国有林は対象外だとの関係はどうだったか。  
→ 森林税ではなく、森林環境譲与税の使い道の話だと記憶しています。

#### 【森林税の普及啓発】

- “森林税の旗”とても目を引きます。今回は大桑村の松くい虫被害木に使われていましたが、突然旗を見ても分からないかも知れません。何に森林税を使ったか分かれば、感心、感謝する気になると思いました。  
→ 現場での表示と広報誌等によるPRとリンクするような効果的な普及啓発に努めてまいります。

#### 【森林経営管理制度について：資料4】

- 木曾広域連合では、新年度から「森林整備推進室」を設置することになりました。平成29年7月の地域会議で、森林整備の事業は広域的な連携により専門性をもって推進することが大切ではないかと発言させていただいています。森林環境譲与税のことも含め、県のご努力に感謝します。
- 森林に対して明らかに新しい時代になってきました。発展ある国土のための森林づくりは、国、自治体、企業、地域住民の垣根を越えた協力が必要だと思います。
- 木曾広域連合に寄る森林経営管理制度の共同運用は大賛成です。スピード感を持って、強力に進めてほしいです。
- 村の生活は36年ほどになります。過去に秋は台風により倒木。冬は雪による停電と、怖い思いをしたことを思い出します。今は、そのような事は無くなりました。それも森林税が使われていることが一助になっているのでしょうか。我家の回りも、か

なり林だった所が森になり大木が増えて来ました。資料4（森林経営管理制度）のように、森林所有者では手入れできない場所も有ると思いますが、昨年の台風19号のように何か有ってからではと思うと心配です。森林経営管理制度についても、宜しく進めていただきたいと思います。

#### 〔その他〕

- 上松町では、県上松技術専門校の卒業生が地域おこし協力隊として活動し、任期終了後も地元での定着を目指しています。人材育成と地場産業の振興に注目しています。
- 令和2年3月10日に、県は木曾・伊那地方とフィンランドとの連携を模索すると町村長に説明されました。この事業も大いに期待されます。
- 森林の里親促進事業は、信濃町が県内で一番多く締結されています。木曾郡内は広域連合を含む複数の町村が締結しています。また形は違いますが、木曾川上下流交流の一環で森林の育成事業などが散見されます。CO<sub>2</sub>吸収評価認証だけではなく、森と親しむ仕組みの拡大に期待します。
  - 当事業及び木曾川流域上下流交流の取組等により、さらに企業や下流域の皆様との交流を進め、森林整備の取組をはじめ、地域の皆様とのつながりを深めてまいりたい。
- 木曾地域は尾張藩の直轄地でした。その関係から2月3日 尾張藩連携事業推進協議会が結成されました。木曾地域の森林活用がさらに期待されます。
- みんなで支える森林づくりは、登録から4年になる日本遺産「木曾路はすべて山の中 山を守り 山に生きる」と融合し新しい時代の森林文化圏が創造されることに期待します。